

豊丘村

合併30周年

記念要覧

30年の歩みを礎に。



よ  
が





## 発刊のことば

昭和30年、河野・神稲両村が合併、新生豊丘村が誕生して今年で30年を迎えました。

30年代の高度経済成長、48年のオイルショックを契機とした低成長時代への移行。さらに、高度情報化社会へと、時々の時代背景のなかで、村の実情を踏まえ、数々の施策を推進してまいりました。

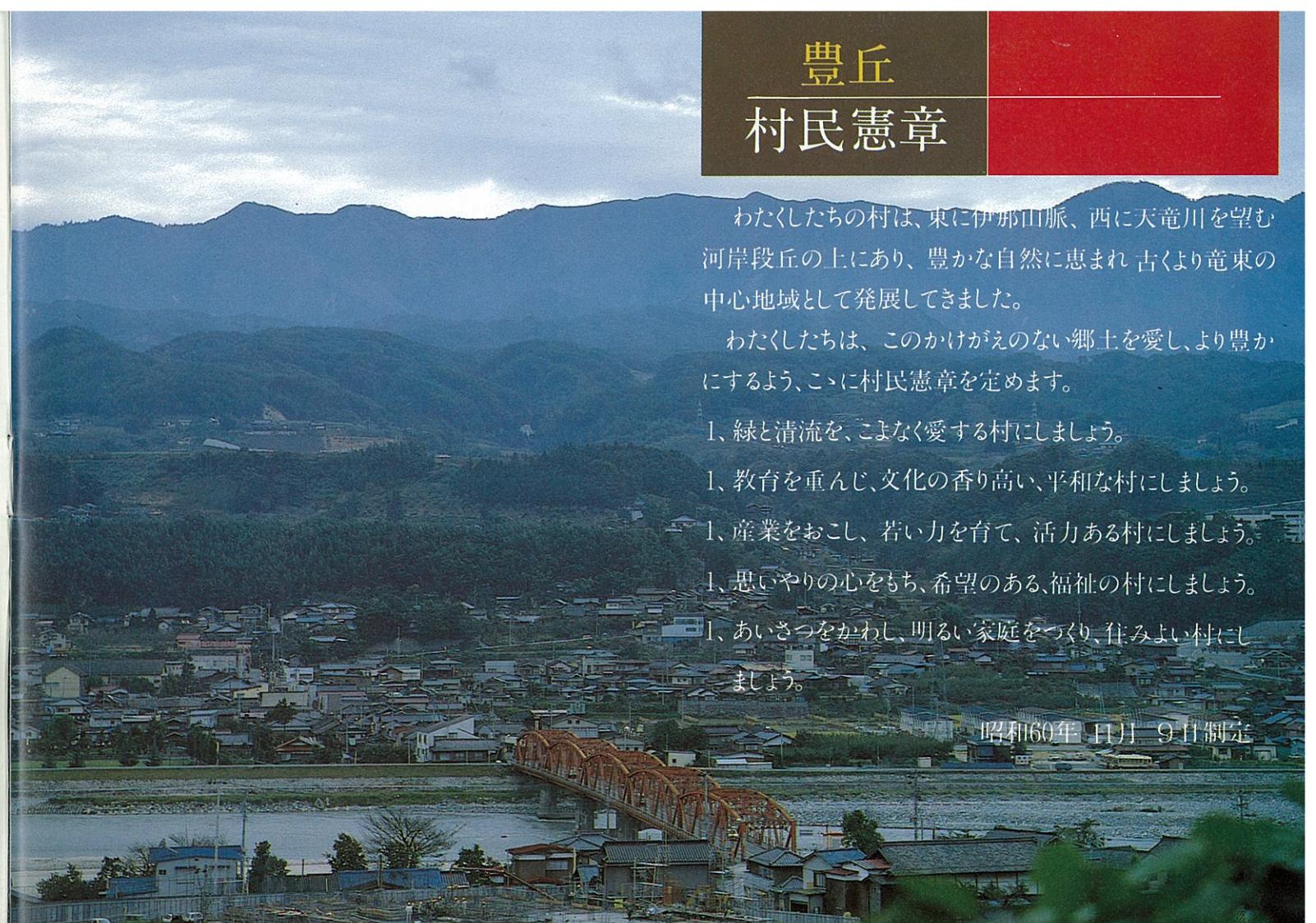
農村総合整備モデル事業、新農業構造改善事業などを導入しての近代化農業の推進、学校建設による教育環境の整備、充実、また、特定地区公園整備事業によるカントリーパークの建設など、様々な事業の推進は、村民各位の御支援、御協力の賜ものと深く感謝申し上げます。

地方の時代がさけばれて久しい今日、さらに今後、一層情報化社会の進展が予想される時、この、30年の村の歩みを礎に、もう一度村民生活と行政の関わりを見つめ、今後ますます大切となってくる手づくりのふるさとづくりを、村民の皆様と共に進めてまいりたいと存じます。

ここに、村の歩みと現状を集約した小冊子を作成致しました。本冊子が、30年を顧みるとともに、将来への展望に立って、豊丘村の現状を見つめ、さらに今後の発展構想を考察することのできる資料として活用いただき、村づくりの一助となれば幸です。

昭和60年11月

豊丘村長  
菅沼一喜



## 豊丘 村民憲章

わたくしたちの村は、東に伊那山脈、西に天竜川を望む河岸段丘の上にあり、豊かな自然に恵まれ古くより竜東の中心地域として発展してきました。

わたくしたちは、このかけがえのない郷土を愛し、より豊かにするよう、こゝに村民憲章を定めます。

- 1、緑と清流を、こよなく愛する村にしましょう。
- 1、教育を重んじ、文化の香り高い、平和な村にしましょう。
- 1、産業をおこし、若い力を育て、活力ある村にしましょう。
- 1、思いやりの心をもち、希望のある、福祉の村にしましょう。
- 1、あいさつをかわし、明るい家庭をつくり、住みよい村にしましょう。

昭和60年11月9日制定

発刊のことば ..... 1

明日の村へわたしたちの願い ..... 3

ふるさと点描 ..... 5

**ダイジェスト** 豊丘村30歳の姿

手づくり文化のある村 ..... 7

次代を担い、健やかに育て ..... 9

農業新時代に向かい、着実な歩みをつづける ..... 11

技術で拓く工業。ふれあいが育む商業 ..... 13

やすらぎあるくらしづくり ..... 15

安全・快適な住環境づくり ..... 17

緑から紅に移りゆく季節のなかで

自然は色彩を染めてゆく ..... 19

すみやかな時の流れに  
いにしえひと  
古人の想いが息づく ..... 20

着実な施策をめざして ..... 21

豊丘村30年のあゆみ ..... 22

村花・村木 ..... 30

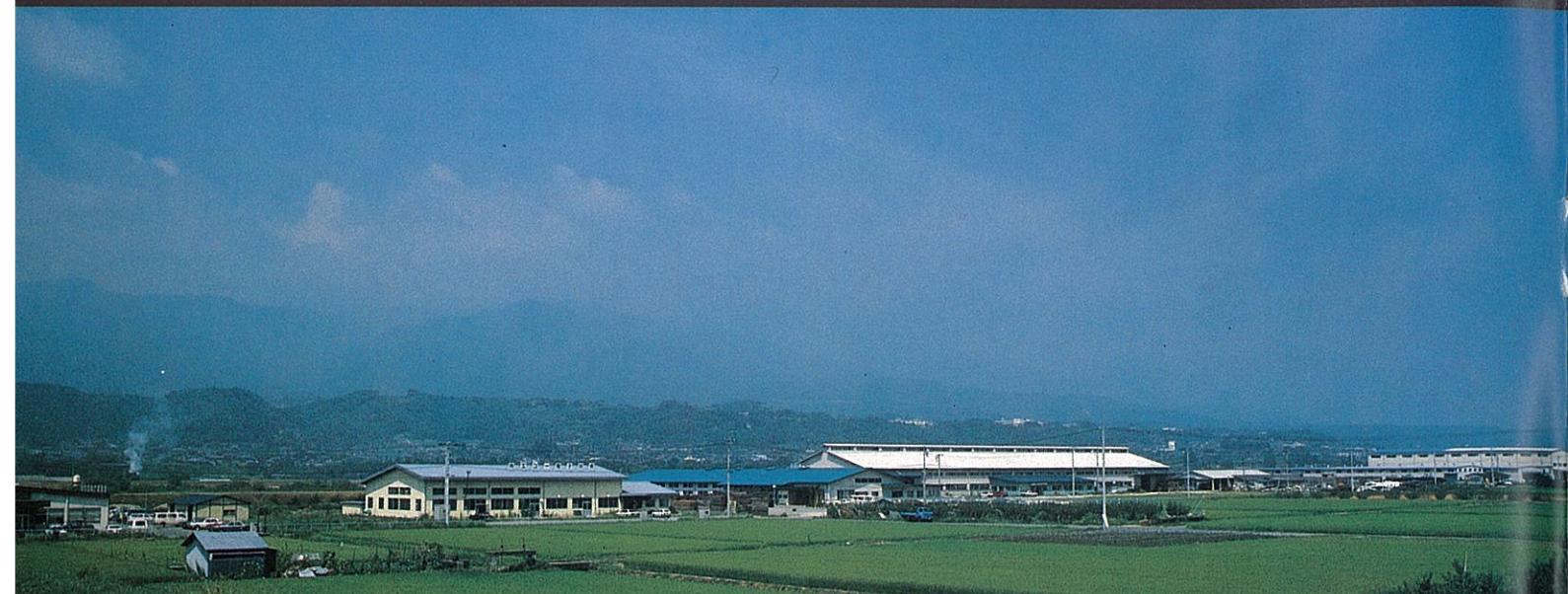
# 明日の村へ

誕生から30年。——人にたとえれば、いよいよその真価が問われる時、大きく未来へ飛躍する第一歩といえるでしょう。今、私たちは村づくりの確かなビジョンをもち、村民の知恵と力を合わせ、より豊かな村を築いていかなくてはなりません。

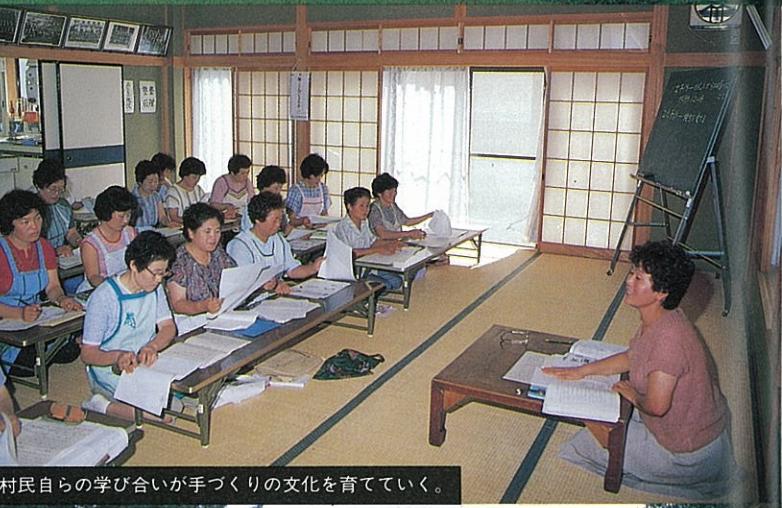


カントリーパーク・村民のふれあいの場として期待される。

充実した設備のなかで、村を担う子供達を育てたい。



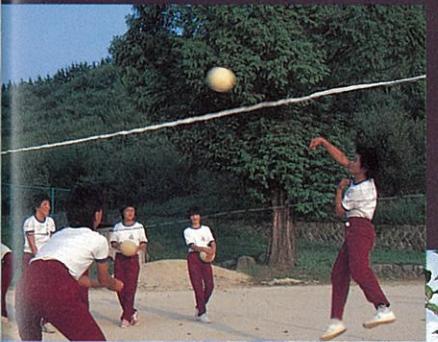
農・工・商調和のとれた産業振興がすすむ。



村民自らの学び合いが手づくりの文化を育っていく。



交通ネットワークの整備は、生活の豊かさを更に拡げる。



農業振興は村の産業の中心を担う。



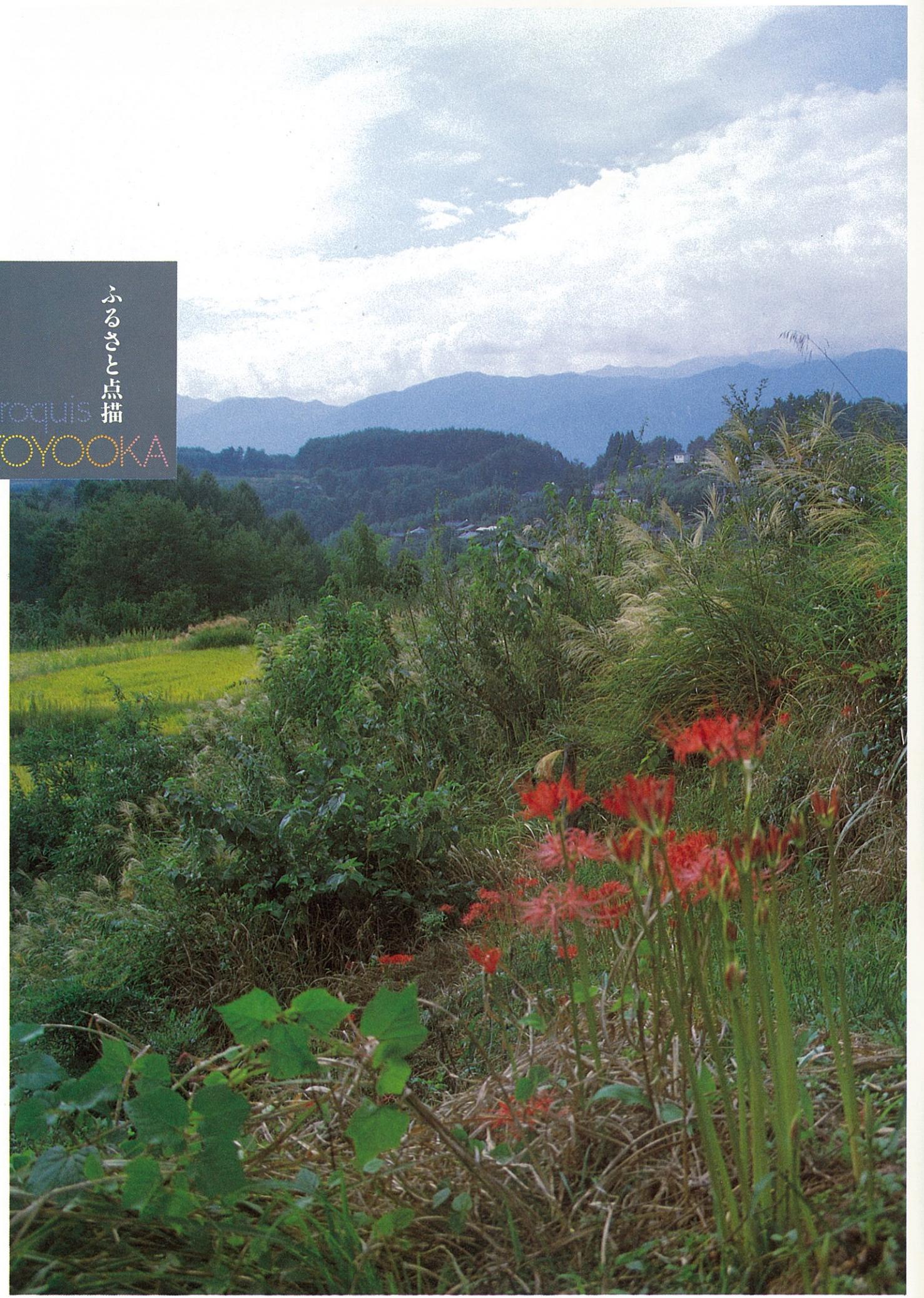
## わたしたちの願い。

私たち、豊かな自然環境を守り、文化の香り高い、明るく住みよい農村社会を建設することを目指とし、農業を中心に、商工業との、調和のとれた産業全般の振興と、教育・文化・福祉の向上を図り、活力ある農村の創造を目指します。



ふるさと点描

croquis  
TOYOOKA



# 手づくり文化のある村。



ママさんバレーボール人口も年々増加しています。

情報化社会といわれる今日、社会環境の変化はめざましいものがあります。くらしのなかの要求や問題も多様化、複雑化してきました。

余暇時間と、情報量の増大という社会情勢のなかで、最近特に、心の豊かさが求められています。物質的な豊かさのなかで、今までなんとなく軽く扱われてきた昔からの知恵や、大切なものをもう一度地域のなかで見直し、本当に豊かな生活文化が求められています。

村では、公民館を核に、様々な文化活動が活発に行われてきました。趣味のサークルから、身近な生活課題を話し合う集会まで、幅広い体制のなかで行われています。社会体育も、豊丘村体育協会を中心に、充実した活動を展開しています。カントリーパーク「林原公園」の完成など施設の整備、充実もすすんでいます。

住民ひとりひとりが自ら学び、知恵を出し合う。ともにさわやかな汗を流し、ふれあう。そこに、豊丘村の本当の手づくり文化が育まれてゆきます。

住民の余暇と健康づくりに、活用が期待される林原公園。



生涯教育の拠点、総合福祉センター。



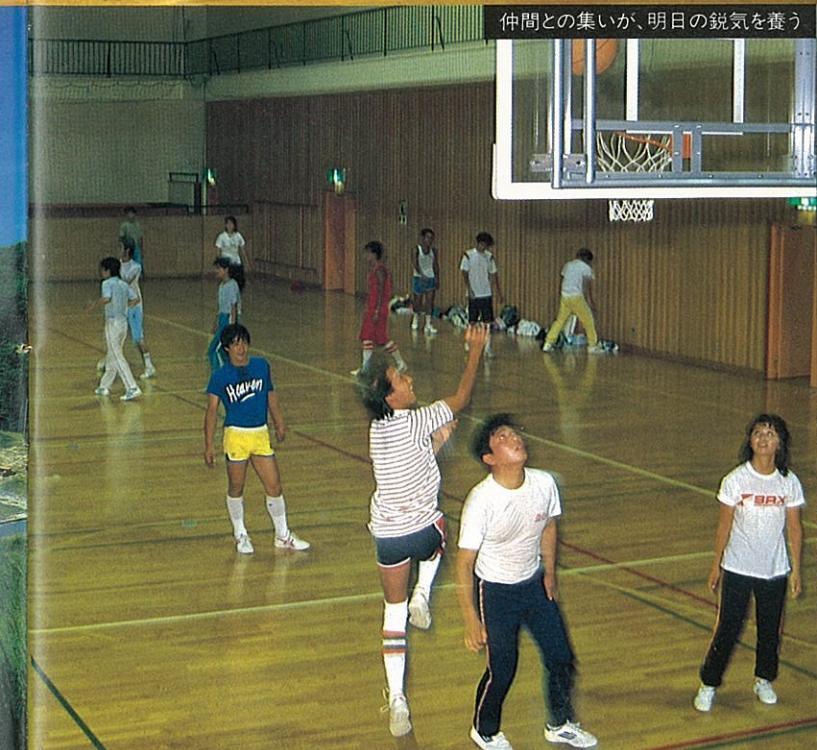
歌声のある村にしたい。



健康づくりも、くらしのなかのファッション。



村民体育館



仲間との集いが、明日の鋭気を養う

# 次代を担い、健やかに育て——。



いつの時代も、子供は未来を担うかけがいのない存在。社会環境が変わっても、健やかに、たくましく育てとの願いは同じです。

合併当時、1,300人を超えていた村の小学校児童数も、現在では607人に減少しました。しかし、その一方で、次の時代を担う子供たちが、心身ともに、明るく豊かな人間に育つよう、教育環境の整備、充実がなされてきました。

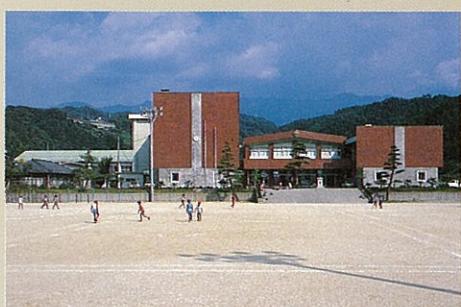
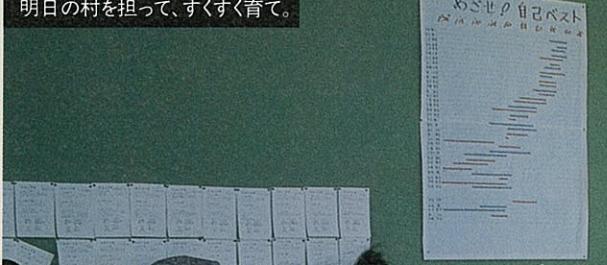
かつての2つの本校、4つの分校も、現在では北小・南小の2つとなり、両小学校の改築整備、視聴覚教育器材の充実、などがはかられています。さらに今後の課題として、中学校の整備等があげられます。

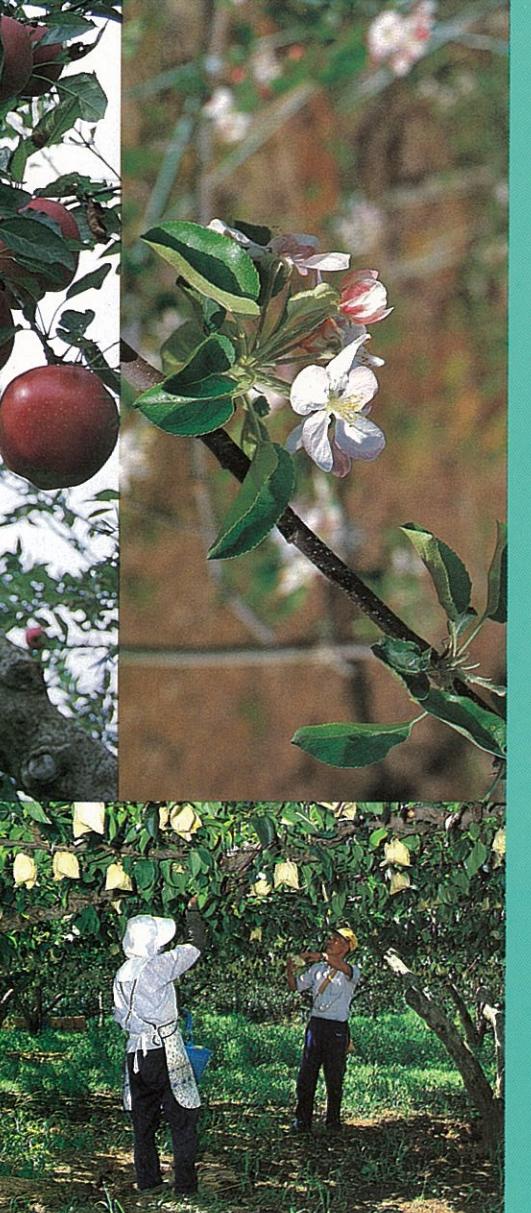
北小学校では、小規模校の長所を生かした、全校給食、縦割り学習。南小学校の毎年初冬に行われる丘の子まつりなど、創造性を育てる個性的な教育がなされています。中学校では、ふるさと学習やクラブ活動も活発で、子供たちは、授業では得られない何かを求めています。

豊かな自然のなかで、のびのび育ち、次の時代をたくましく担って欲しい。——学校・家庭を含めた教育環境づくりがすすめられています。



明日の村を担って、すくすく育て。





## 農業新時代に向かい、 着実な歩みをつづける。

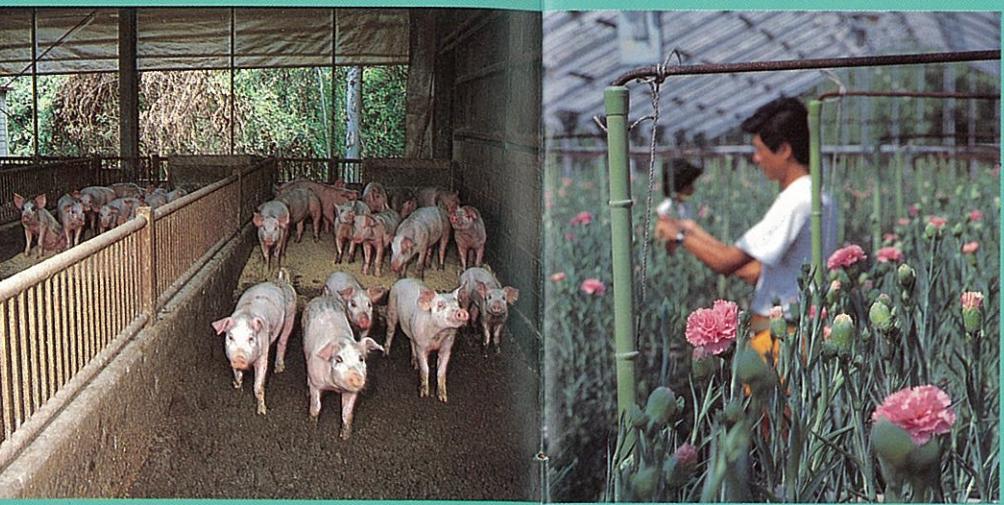
村の農業構造は、この30年で大きく変化してきました。各種補助事業の実施のなかで、稲作・養蚕中心の農業経営から、果樹・畜産が村の中心作目に変わってきています。昭和35年当時36haしかなかった樹園地は、急速に増加し、現在、耕地面積は7倍もの伸びを示しています。

生産基盤の整備、農地の流動化、機械化、大規模農業施設の整備が進められ、農家数の減少はあっても、効率的な都市近郊型農業として、村の産業の中核を担っています。

農業後継者づくりも“若農会”を中心に、活発に行われています。

若い担い手農家が着実に育ち、近代的な農業基盤が整備されていくなかに、より豊かな農業の村としての発展が大いに期待されます。

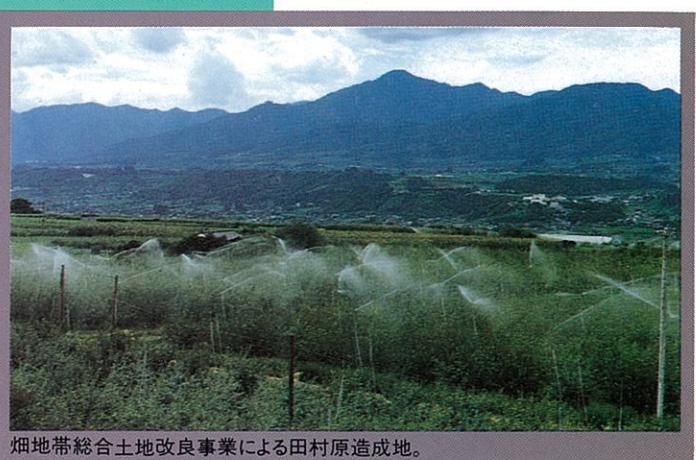
村の75%を占める山林についても、治山・治水・水資源の確保の上からも、その活用が望まれます。



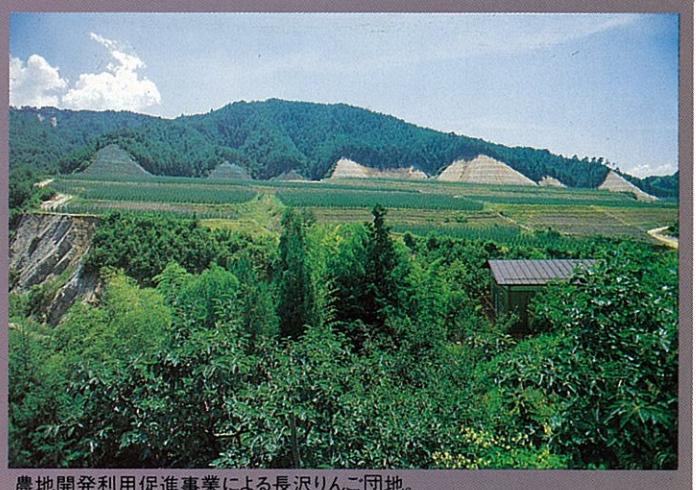
第2次農業構造改善事業により、ほ場整備された河野水田。



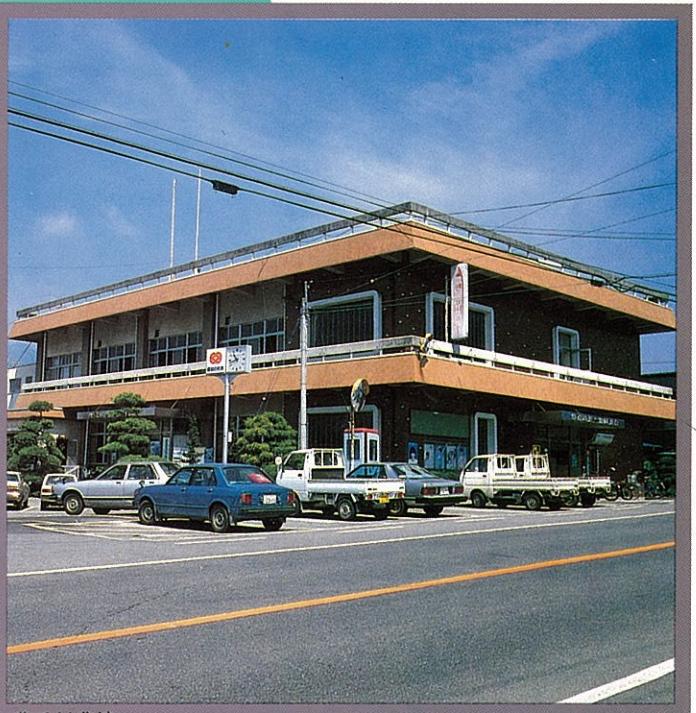
新農業構造改善事業による笹久保の造成地。



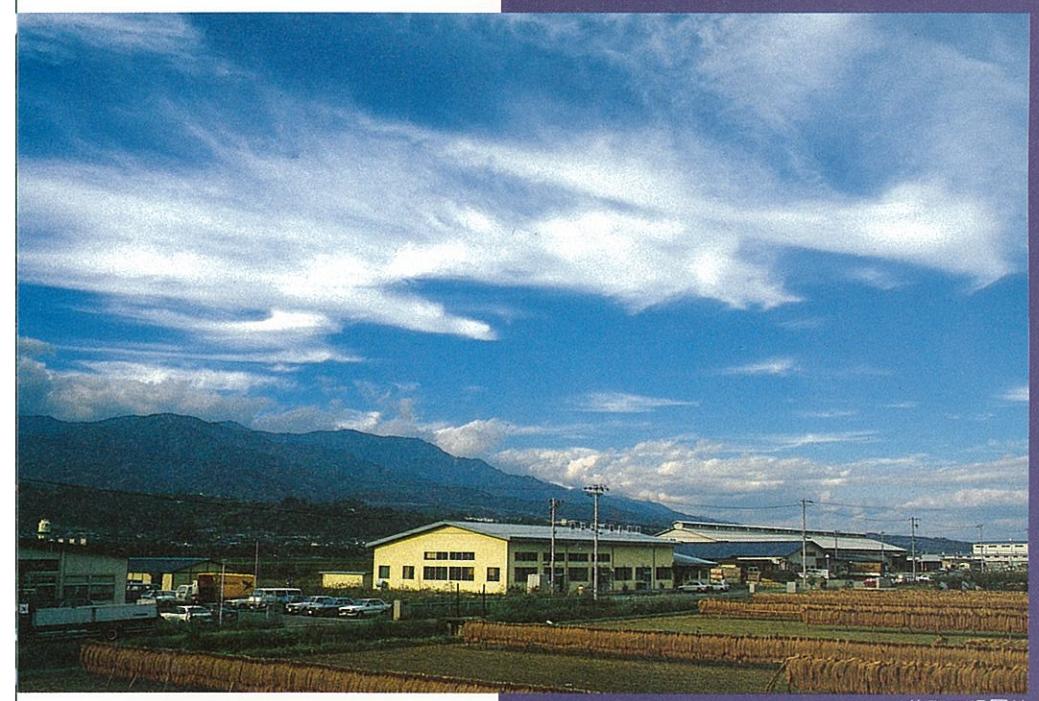
畠地帶総合土地改良事業による田村原造成地。



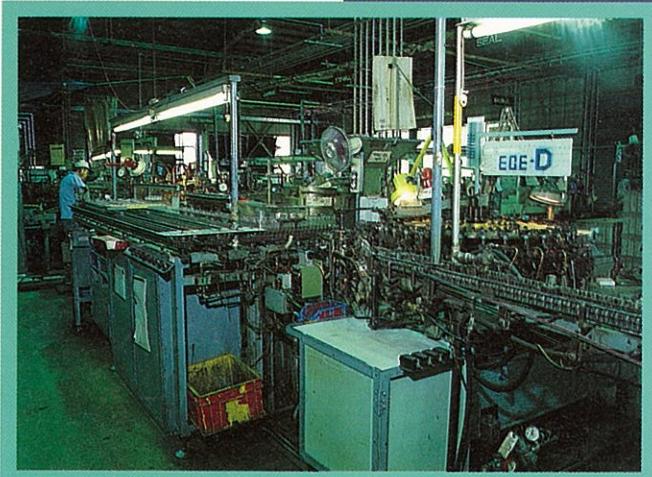
農地開発利用促進事業による長沢りんご園地。



豊丘村農協



伴野工場団地



電機工場内部



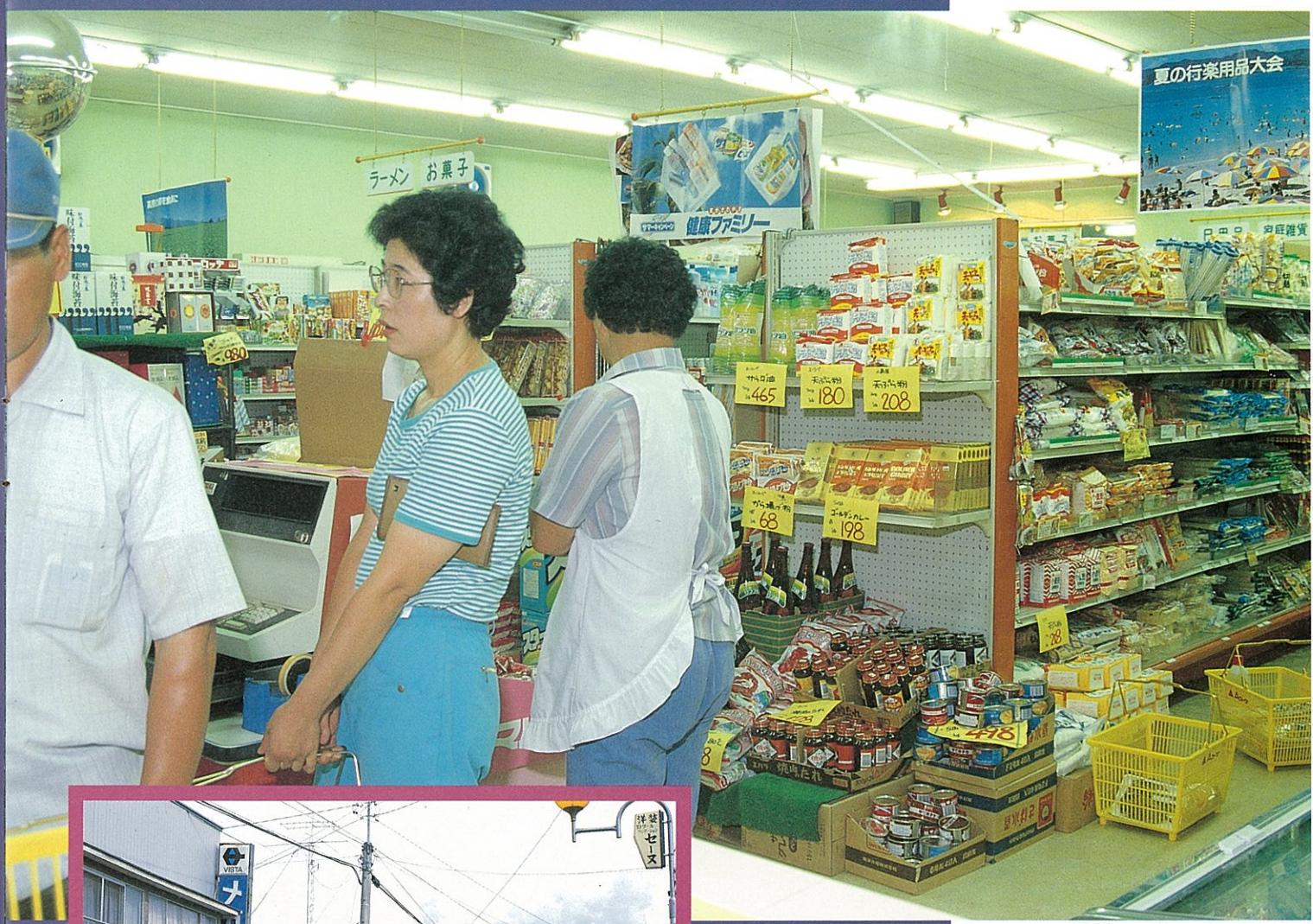
プレス工場内部

## 技術で拓く工業。 ふれあいが育む商業。

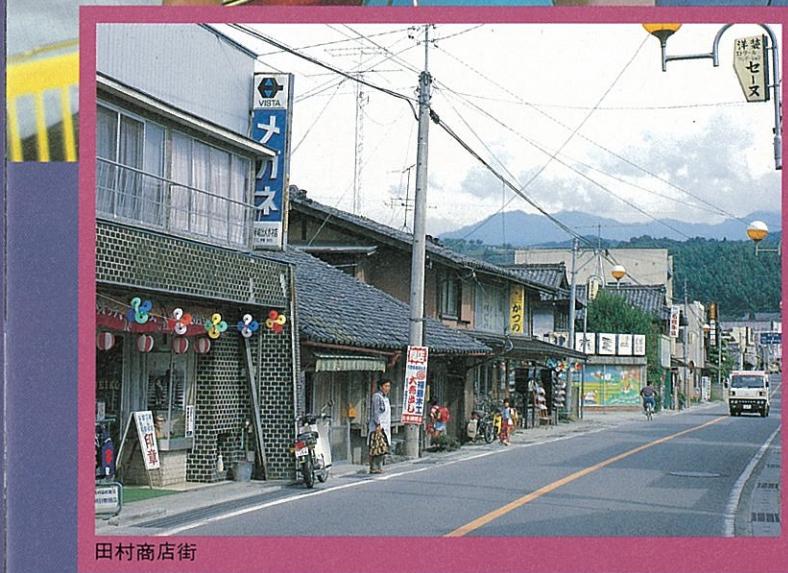
村の商工業は農村工業として、また、地域密着型の商業として、小規模ながらも着実な歩みを続けてきました。

工業は、食料品関連の地場産業、さらに電機関連を中心で、中央道開通による、首都圏・中京圏との時間距離の短縮、伴野工場団地の完成、さらに、伊那テクノバレー構想のなかで、その発展が期待されます。兼業農家への安定した雇用の場と、農外所得の確保のため、企業の誘致と既存企業の育成、グループ化による受注体制の確保が望まれます。

自動車の普及や、近隣への大型店の進出など、商業環境は大きく変化しています。商業は地域住民を対象として経営する自家営業がほとんどですが、地域の人々とのパイプを太くし、商店街の活性化を図ることが必要でしょう。



店内に、明るい会話がはずむ。



田村商店街



豊丘村商工会



食品製造業は地場産業として、古い歴史をもつ。



商店街活性化の拠点、明神稻荷神社



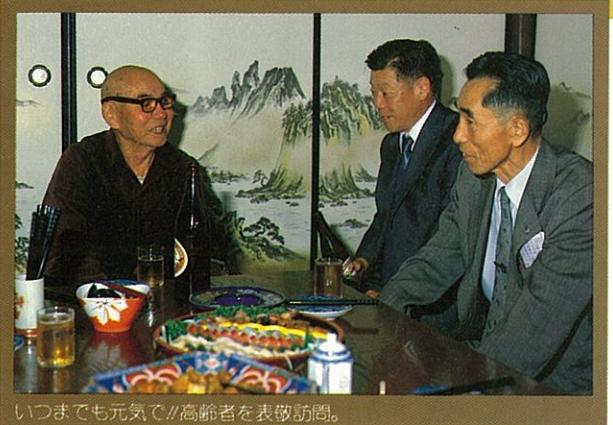
毎年9月に行われる敬老会。



老人憩の家。



移動保健車による住民検診。



いつまでも元気で//高齢者を表敬訪問。

Ճակատագործությունը մասնաւոր է պահանջմանը՝

将来を担っていく幼児たちに、そして村を守り育ててきたお年よりに、潤いある毎日を送ってもらいたい。温かな心が通い合うながら、真の福祉が生まれてきます。

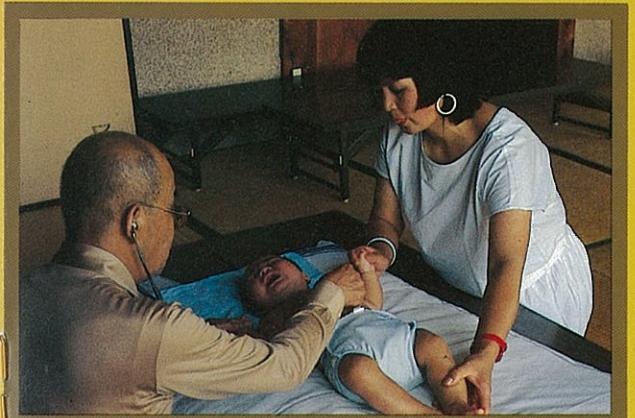
現在、村では65歳以上の人のが全体の17%を占めています。ヘルパーさんによる老人介護や老人クラブの活動の充実、生きがい対策など、高齢化社会に対応した老人福祉がすすんでいます。

保育も村内の3つの保育所で、施設整備と、  
保育内容の充実がすすめられています。

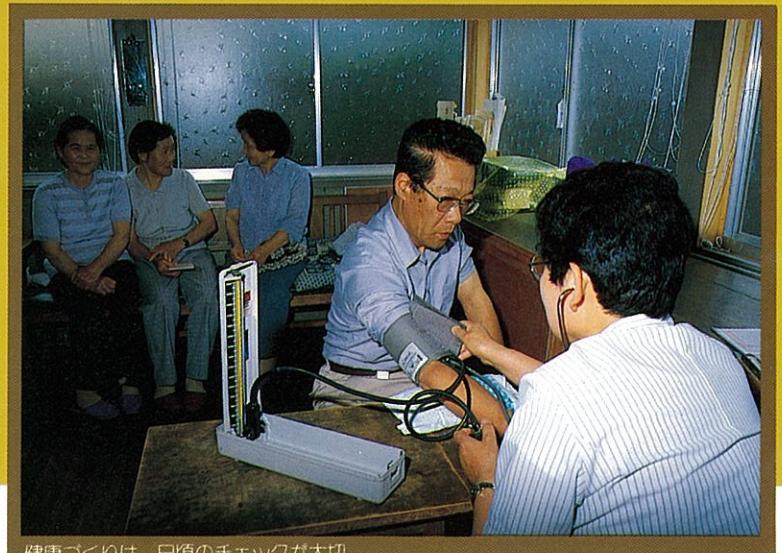
住民の健康問題への関心は、食生活を通じての健康教室など、住民自らの活動に表われ高まつきました。婦人層を中心に、各種健康教室が定期的に開かれ、また毎年2月には村をあげての健康を守る村民の集いが開かれています。村には現在、10名の保健協力員が住民の健康づくりの指導にあたっています。また、毎年4月の健康増進月間には、胃検診成人病検診が行われ、9月の婦人科検診の実施により住民の健康管理が実施されています。



ヘルパーさんの優しさが、お年寄りに安心を与える。



定期的に行われる幼児検診。



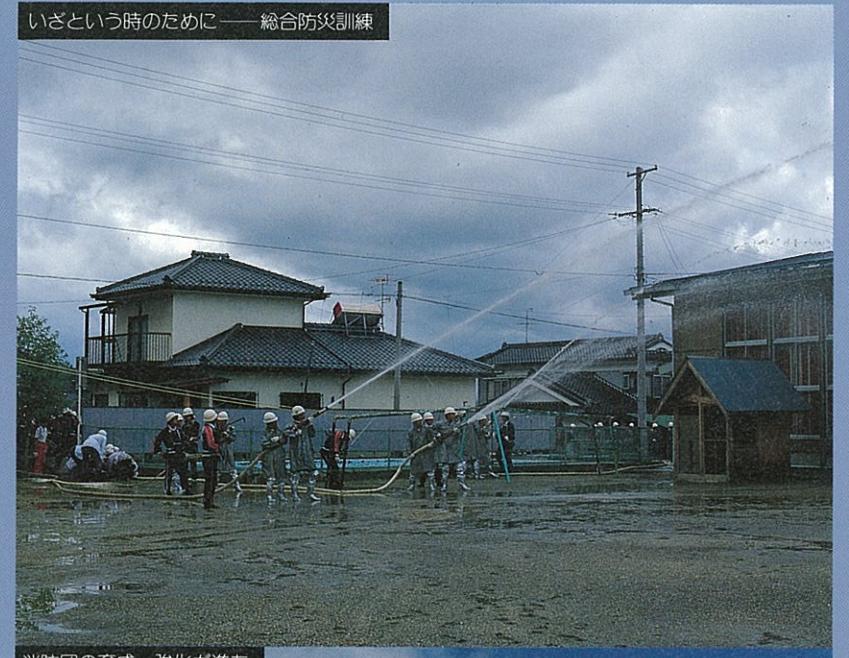
健康づくりは、日頃のチェックが大切。



活発に行われる健康教室。



いざという時のため――総合防災訓練



消防団の育成・強化が進む。



## 安全・快適な住環境づくり――。

### 災害につよい村を

災害はいつの時代も絶えることはありません。記憶に新しいところでは、昭和58年の台風10号災害、59年の鬼面山火災など。また毎日、新聞を賑わす交通災害など。

村では、安全な生活環境づくりに力を入れています。飯田地区広域消防組合の加入により、災害への組織強化がなされました。また消防団の育成にも力を入れています。といつても、防災はひとりひとりの心がけが大切。総合防災訓練、交通街頭指導など、指導体制を強化しています。

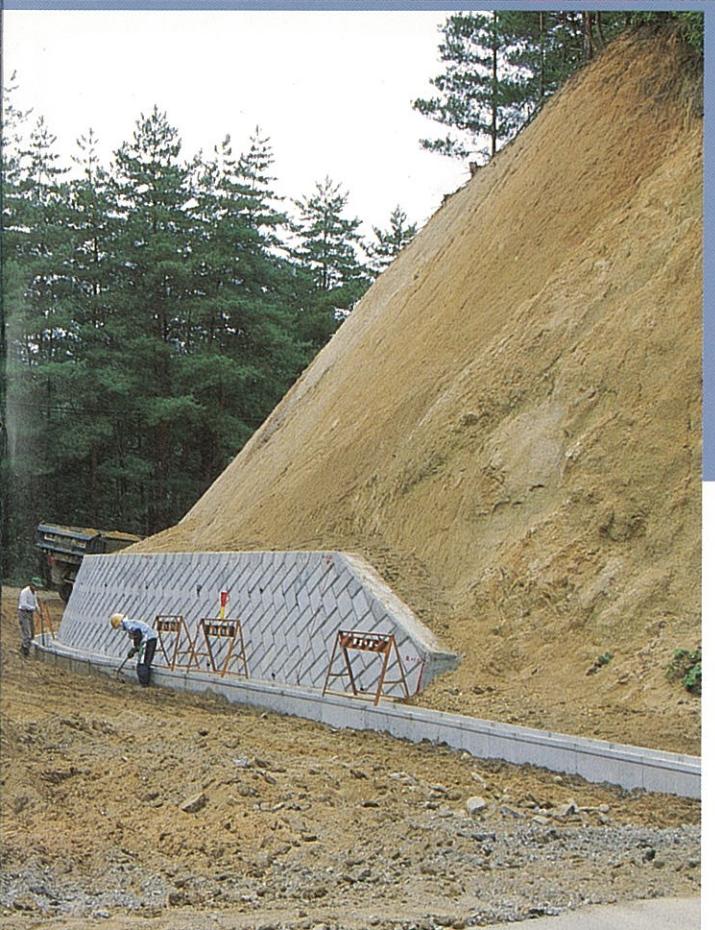
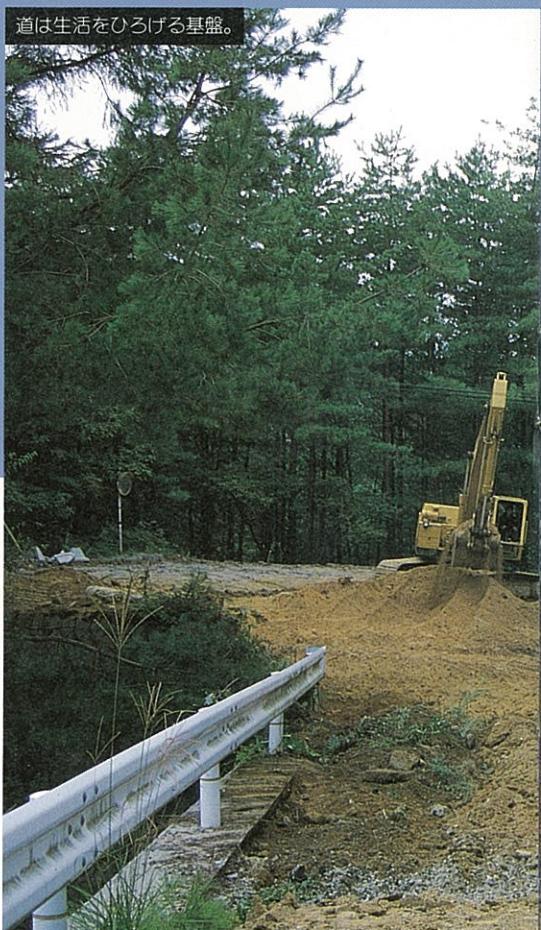
### 住み良さのバックアップ

村民の健康で文化的なくらしのために、村では生活環境の整備、充実を図っています。簡易水道の整備、ゴミ・し尿処理などの環境衛生、生活の基盤である道路、橋などの交通ネットワークづくり。防災無線、有線放送など、通信ネットワークづくりと、安全でくらしやすい環境づくりをすすめています。

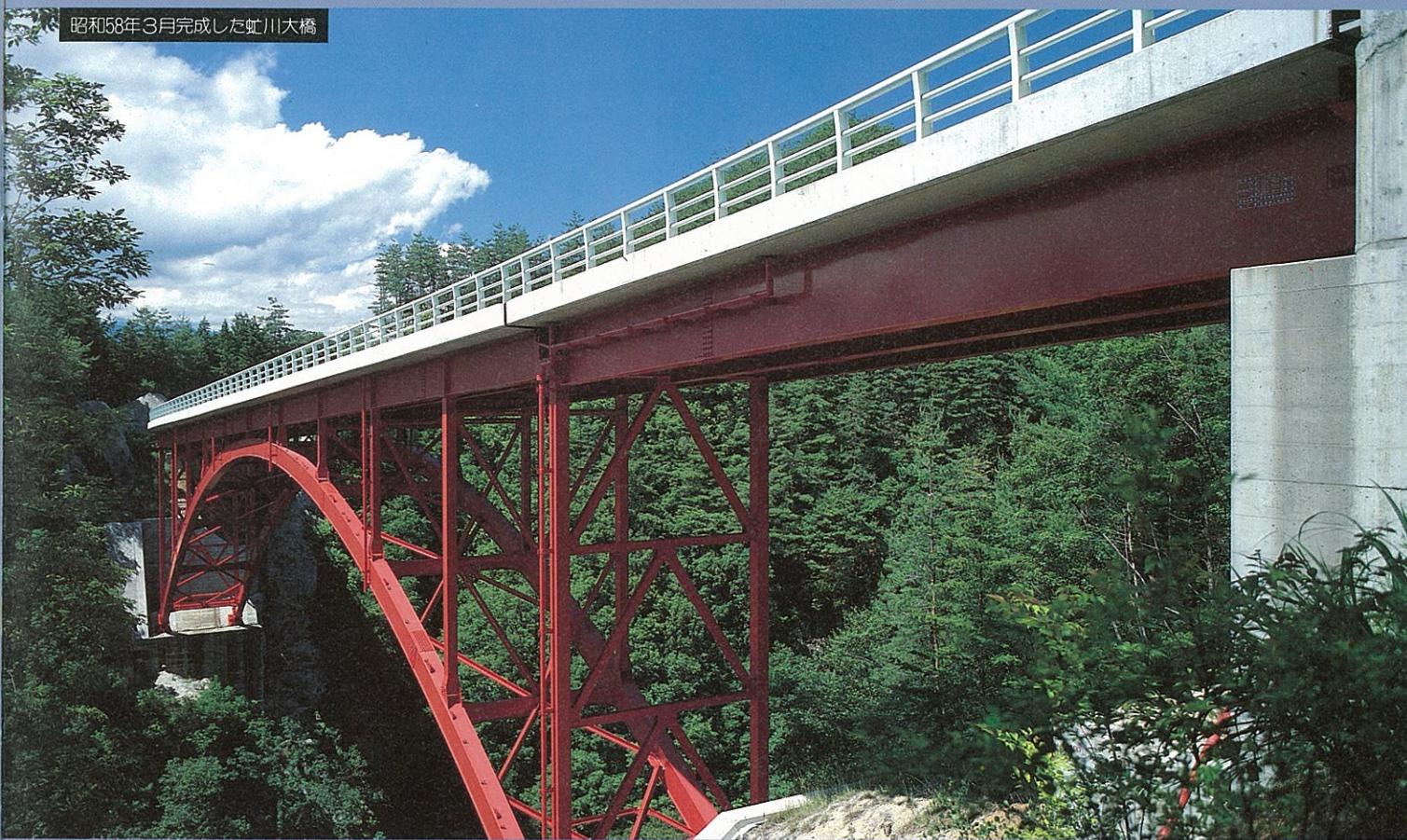
道は生活をひろげる基盤。



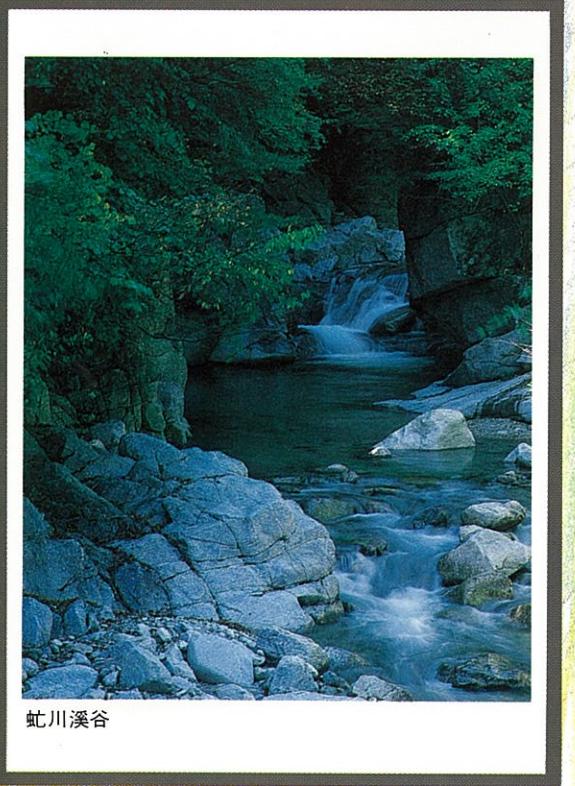
村の身近な情報をお届けする豊丘村有線放送



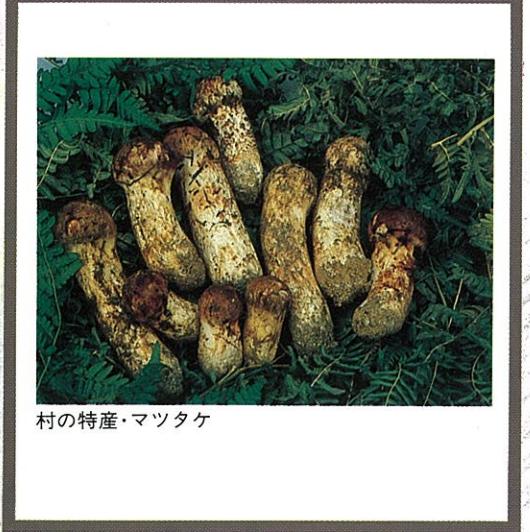
ゴミ清掃車



昭和58年3月完成した虹川大橋



虹川渓谷

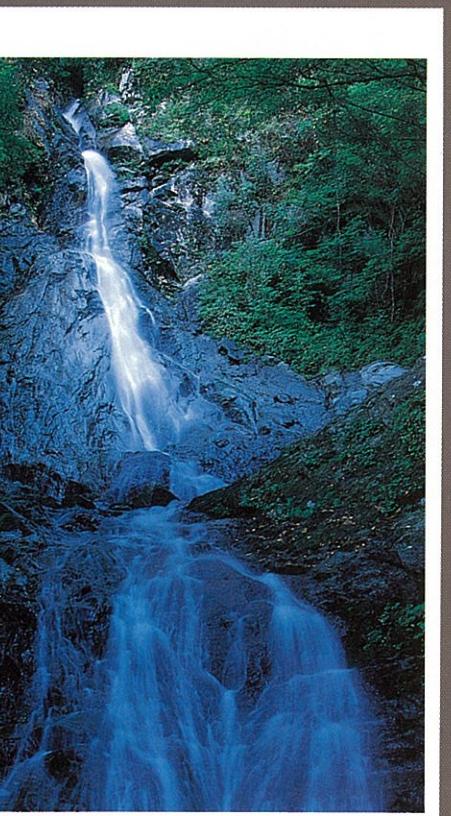


村の特産・マツタケ

緑から紅に、移りゆく季節のなかで  
自然は色彩を染めてゆく。



泉竜院の三色藤



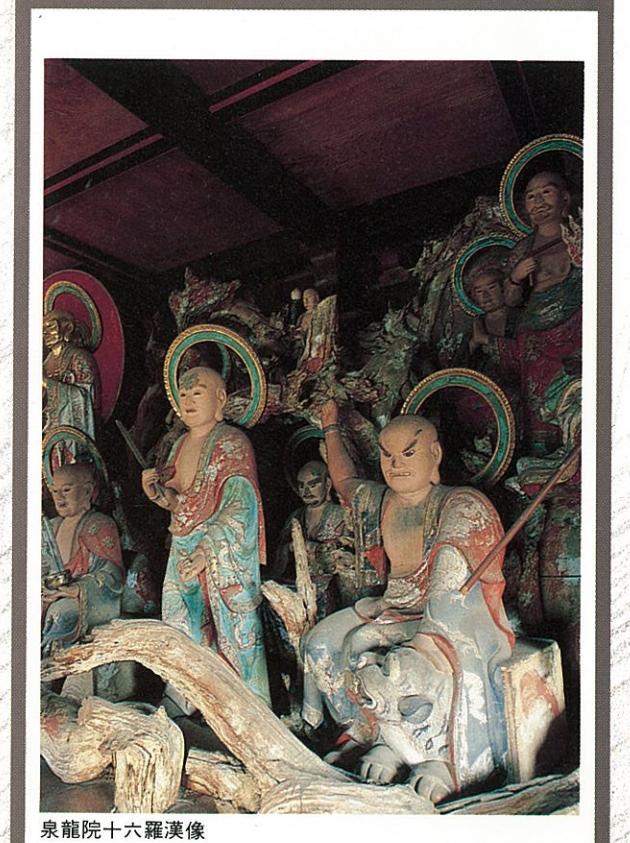
新九郎滝



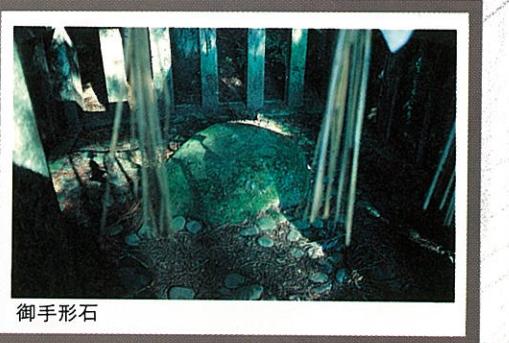
慈恩院山門



泉龍院山門



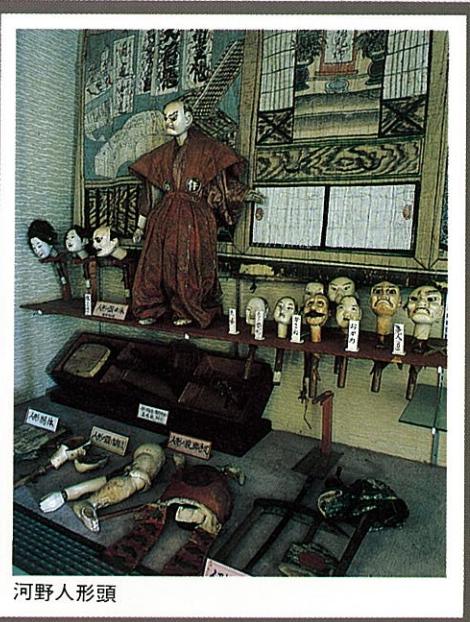
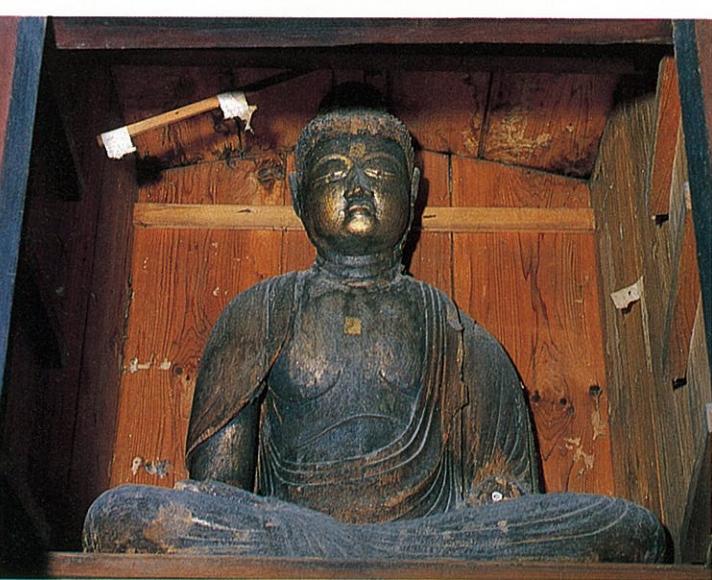
泉龍院十六羅漢像



御手形石

すみやかな時の流れに、  
いにしえびと  
古人の想いが息づく。

林薬師如来木彫座像



河野人形頭



歴史民俗資料館



## 着実な施策をめざして。



村では“緑”と“太陽”と“清流”の豊かな村として発展させていくことを基調に、様々な施策を通して、住民の豊かな暮らしづくりに取り組んでいます。

そして住民一人一人との対話の中から、住民一人一人の参加により、より豊かな村づくりが拓かれるものと考えます。また、豊かな行政を実施するため、健全な財政の推進に努めています。

村民の声を村政に反映させ、村の進路を決める議会は、現在20名の議員で構成されています。年4回の定例会と必要に応じて臨時会が開かれます。各議員は総務・社会・土木・経済の各常任委員会のいずれかに属し、専門分野で活動しています。



三役(左より) 助役、村長、収入役



議長(左) 副議長(右)

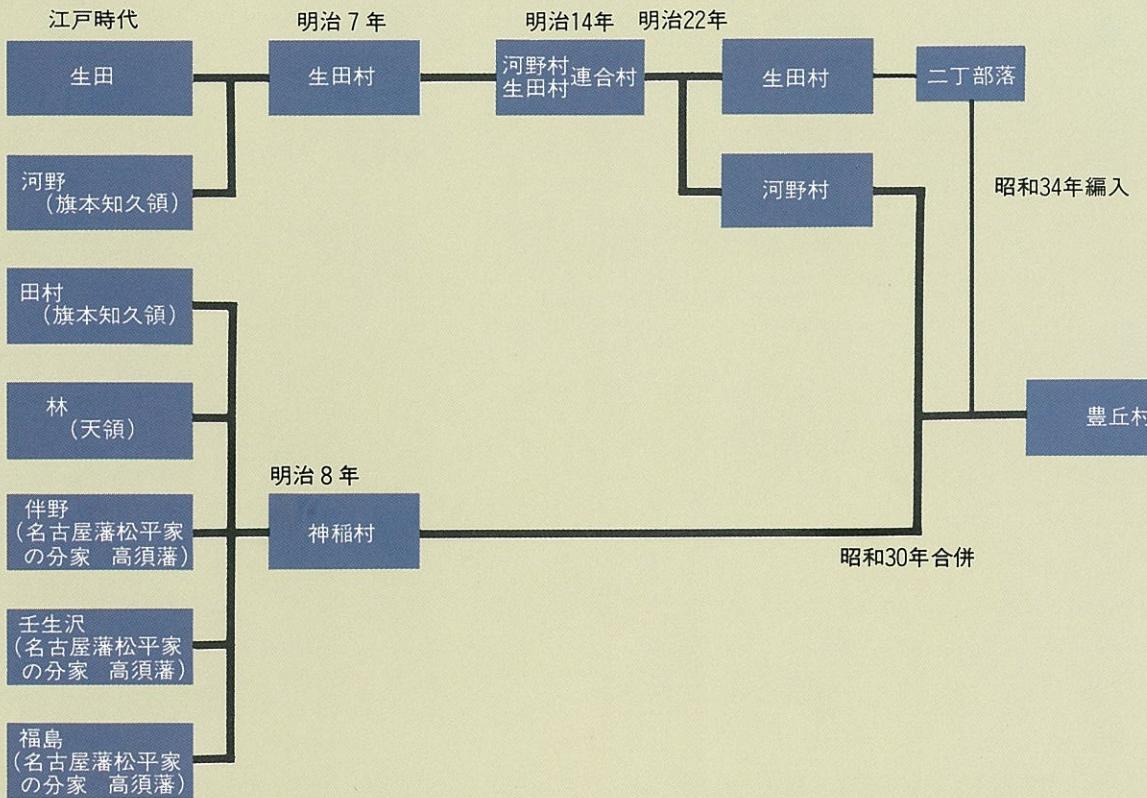


豊丘村30年のあゆみ

# 豊丘村30年史

## 村の変遷

注:( )は江戸時代の領域



## 沿革

本村は上代の伴野庄の中心地域で平安時代は上西門院の御領地でした。鎌倉時代に入り、地頭小笠原長清によって管理され、のち知久氏の統治するところとなり、吉野、室町の両時代を経過します。戦国時代は、武田、織田、豊臣諸氏の支配下にありました。江戸時代、徳川氏の政治が安定するに及んで河野、堀越、田村は阿島の知久氏の知行所となり、林は幕府の直轄地（天領）となって、飯島代官所の支配に属しました。また、伴野、壬生沢、福島は美濃高須藩松平氏の所領となって、山本村の竹佐代官の支配下にありました。

明治のはじめ、虹川以北の地域は伊那県に、以南の地域は名古屋県に属しましたが、同4年、全地域が筑摩県下に編入され、同9年、長野県の直轄になりました。なお明治7年、河野は生田村に合併（のち22年、分離して河野村になる）、また、田村、林、壬生沢、伴野、福島の地域は神稻村となり、大正、昭和へと続き、昭和30年4月、河野、神稻両村が合併して、今日の豊丘村が誕生しました。

## 行政

神稻村・河野村合併、豊丘村誕生。

村長、村議選。

役場新庁舎落成にあわせ、合併記念式典。

中央横断線に着手。

統合中学校建設に着手。

豊丘村誕生(昭和30年)

5号台風

(被害額1億3千万円)。

優良合併村として

自治庁長官表彰を受ける。

統合中学校完成・開校。

豊丘有放設立。

全村に有線放送施設完成。

村長、村議選。

村境変更。

消防ポンプ四輪自動車

(2分団)

三輪消防自動車

県道で初舗装(田村)

万年橋永久橋になる。

30年

## 産業

竜東井。畠田井隧道完成。



## 教育・文化

館報「とよおか」創刊。

豊丘村青年団発足。

全村運動会。



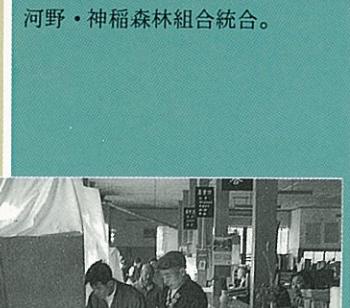
統合中学校建設に着手(昭和31年)



未曾有の凍霜害。



第1回豊丘村青年問題研究集会。  
婦人会合併。



豊丘公民学校(補修学校)。



全村運動会

青年映画祭。

青年団歌決まる。

婦人会組織改革。

各部門(文化・厚生・政治他)

南北小で完全給食始まる。



5号台風

(被害額1億3千万円)。

優良合併村として

自治庁長官表彰を受ける。



河野・神稻森林組合統合。



統合中学校開校。

中学体育館建設着手。

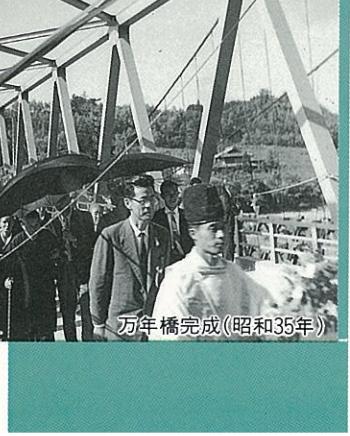
音楽・演劇発表会。



河野改善グループ誕生。



婚葬改善グループ誕生。



河野区民会館完成。

壬生沢区民会館完成。

テレビの普及。



文化祭。



新生活運動、紙の門松普及。

郵便集配区統合。

## 生活・その他

日本脳炎発生。

新生活運動。  
河野区発足。

改善結婚式(役場)。  
生活記録のつどい開催。  
床上廃止・成人式の服装簡素化。  
修学旅行銭別の廃止。  
バーマ割引券。

婚葬改善グループ誕生。

河野区民会館完成。  
壬生沢区民会館完成。  
テレビの普及。

新生活運動、紙の門松普及。  
郵便集配区統合。

## 行政

梅雨前線豪雨災害。  
(被害額15億円)。  
野田平分校まで  
自動車道開通。



梅雨前線豪雨災害(昭和36年)

工場誘致条例制定。  
興亜電工豊丘工場  
神稲建設製材部  
竜峠鉄構株式会社  
自動車ポンプ第一分団へ。

法務局豊丘出張所開庁。

中段地帯に水路横断。  
しいたけの不時栽培。  
40馬力トラクター県より貸与。  
丸昌稻垣醸造有限会社、  
豊丘工場建設。

青少年問題協議会発足。  
国土調査始まる。



村の文化祭(昭和39年)

合併10周年。  
災害復興祭。  
田村区に信号機設置。



災害復興祭(昭和40年)

南保育所完成。  
唐澤村長誕生。  
南信土地改良区着工。  
小渋川土地改良区オープン。  
中央横断線開設。

農業立村。  
米と蚕大豊作。  
ニューカッスル病大発生。  
農政運動を重視。

農業立村。  
米と蚕大豊作。  
ニューカッスル病大発生。  
農政運動を重視。

老人学級。  
分校統合。

## 産業

小中学校々歌決まる。  
北小プール完成。  
公民学校を廃止。  
中学寄宿舎完成。

馬耕・牛耕に変わり耕耘機が普及。  
青年学級開設。  
老人クラブ誕生。  
南小体育館完成。

農業の機械化すすむ(昭和38年当時)

専任館長・主事の設置。  
婦人学級開講。  
中学校プール完成。  
趣味の会発足。  
特殊学級開設(南小)

分校統合案成る。

河野の家の上古墳発掘。  
スクールバス運行。

老人学級。  
分校統合。

小学校分校統合(昭和42年)  
村の人口8千人を割る。

村の人口8千人を割る。

## 教育・文化

二丁部落、集団移住を決意。  
中部と林で共同炊事。

交通安全協会発足。

灾害復旧田での田植え(昭和37年)

農休日設定。

東京オリンピック。  
カラーテレビの普及。

自家用車普及へ。

診療所改築(昭和41年)

乳幼児医療無料化。  
虻川橋かけかえ。  
堀越簡易水道完成。

診療所に医師着任。  
慈恵園の誘致。  
村営墓地建設。

田村原遺跡発掘。

生活改善お返しもの廃止申し合  
わせ。

## 生活・その他

消防団分団統合。  
間沢川線林道完成。

消防団統合(昭和43年)

明神橋に歩道橋できる。

村道の舗装(バス路線)に着手。  
村マイクロバス購入。

林里に初の歩道橋。

竜東一貫水路着手。

天候不順で農作物不作。

中学校に岩石園完成。  
ナイトーソフト。  
早起き野球開幕。

第2次構実施に入る。(昭和46年)

台城橋かけかえ。  
農協合併成る。

農業の団地化すすむ。  
農協生産部会統合。

S S 第1号村に入る。

長沢別荘団地契約成る。

三次原畜産団地。

老人憩の家完成。

南平りんご団地完成。

診療所に医師着任。

診療所医師確保問題。

青年連絡協議会発足。

長沢別荘造成。

長沢別荘造成。

館報150号。

乳幼児医療無料化。

乳幼児医療無料化。

剣道クラブ、知事表彰受賞。

虻川橋かけかえ。

虻川橋かけかえ。

4水道統合。

堀越簡易水道完成。

堀越簡易水道完成。

中央横断線完成。

中央横断線完成。

中央横断線完成。

商工会館完成。

米価斗争で出庫拒否。

米価斗争で出庫拒否。

文化財保護条例できる。

田村原遺跡発掘。

田村原遺跡発掘。

生活改善お返しもの廃止申し合  
わせ。

## 行政

婦人会再建へ。  
南小プール完成。



消防団統合(昭和43年)

中学校開校10周年。

総合福祉センター完成。

## 産業

有線自動化(公社接続)。  
有線局舎完成。



総合福祉センター完成(昭和44年)

野田平マス養殖。生活改善の規定。  
福祉センター初の会費制結婚式。

県道駐車禁止になる。  
日赤奉仕団結成。



ナイトー照明できる(昭和45年)

## 教育・文化

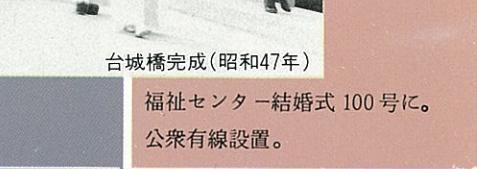
村誌編さん着手。  
中学校に夜間照明。

中学校に岩石園完成。  
ナイトーソフト。  
早起き野球開幕。

史学会発足。

青年連絡協議会発足。  
館報150号。

河野で神社奉納相撲。(秋まつり)。



台城橋完成(昭和47年)

福祉センター結婚式100号に。  
公衆有線設置。



県営住宅建設事業開始(昭和49年)

生活改善お返しもの廃止申し合  
わせ。

## 生活・その他

天候不順で農作物不作。

中学校に夜間照明。

台城橋かけかえ。

農協合併成る。

農業の団地化すすむ。

農協生産部会統合。

S S 第1号村に入る。

三次原畜産団地。

老人憩の家完成。

診療所に医師着任。

慈恵園の誘致。

村営墓地建設。

4水道統合。

中央横断線完成。

長沢別荘造成。

長沢別荘造成。

乳幼児医療無料化。

虻川橋かけかえ。

堀越簡易水道完成。

中央横断線完成。

商工会館完成。

米価斗争で出庫拒否。

文化財保護条例できる。

田村原遺跡発掘。

生活改善お返しもの廃止申し合  
わせ。

## 行政

合併20周年。  
村章の制定。  
伴野工場団地計画。



合併20周年を迎える。(昭和50年)

## 産業

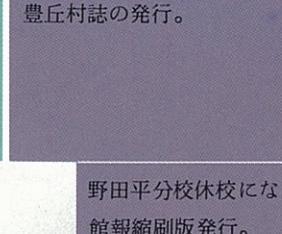
構造改善事業完成。  
アメリカシロヒトリ発生。



合併20周年を迎える。(昭和50年)

## 教育・文化

小学校整備問題。  
体育協会発足。  
豊丘村誌の発行。



野田平分校休校になる。  
館報縮刷版発行。  
南北小合同修学旅行。  
弓道場完成。

## 生活・その他

公民館結婚式 200号。  
公社電話普及。  
佐原・福島で獅子舞い復活。

堀越若者の手で獅子舞い復活。

50年

農村総合整備モデル事業計画策定。  
南部水道着工。



農村総合整備モデル事業に着手(昭和51年)

異状低温と日照不足で農作物不作。  
米の生産調整。

伴野工場団地完成。

造林事業減る。

広域農道建設に着手。

小学校整備問題、  
2校制で決着。  
青年団機関紙

「豊丘青年」発行。

館報 200号。

南小 100年史刊行。

やまびこ国体炬火リレー  
給食、一部米飯給食になる。  
中学校々舎化粧直し。  
中学校20周年記念式典。

公民館結婚式 300組達成(昭和52年)



51年

農村総合整備モデル事業に着手。

異状低温と日照不足で農作物不作。  
米の生産調整。

伴野工場団地完成。

造林事業減る。

広域農道建設に着手。

議員定数20名になる。  
野田平の集団移住。



野田平集団移住完了(昭和54年)

52年

16年ぶりの村長選。  
村議選も少数激戦。  
選舉公報発行。  
野田平集団移住完了。

53年

消防組合加入を決定。  
長沢別荘団地、村が買い取る。  
地震総合防災訓練。

果樹農家、凍霜害と台風16号で大被害。

冷夏で全国的に大打撃。

北部農協の合併研究。

竜東一貫水路完成。

商工会村営駐車場完成。

歴史民俗資料館オープン。  
河川敷グランド完成。  
中学寄宿舎とりこわし。  
ゲートボール盛んになる。

堀越通学区問題。

小学校ランドセル統一化。  
給食センター化。

選舉で個人合同演説会。

54年

南保育所完成  
(未満児保育スタート)  
広域消防組合発足。  
伴野工場団地 6社決定。  
局地的雷雨で大被害。  
診療所休診。

イネミズゾウ虫発生。  
りんご選果場建設。  
商工会街路灯更新。



南保育所完成(昭和56年)

55年

## 行政

村歌制定。  
診療所運営委託。

57年

## 産業

異状気象と台風で果樹大被害。  
長沢日影山りんご園地造成。  
りんごのワイ化すすむ。  
市田柿カビ大発生。  
商工祭。

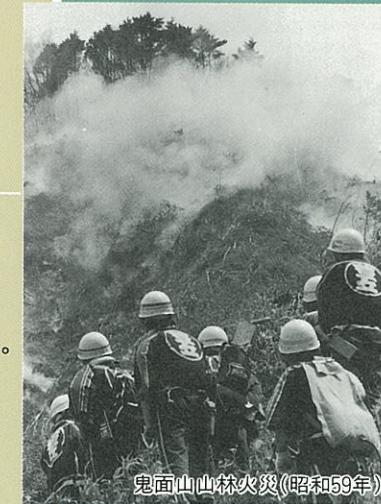
広域農道の虹川大橋完成。



村民体育館完成(昭和58年)

58年

鬼面山山林火災。  
課の統廃合。  
天竜川改修工事。  
北保育所改築。



鬼面山山林火災(昭和59年)

59年

農作物豊作。  
マツタケ不作。  
下伊那北部農業共済組合発足。  
北保育所改築。

60年

りんご大橋完成。  
議員定数18名に決定。  
堀越・佐原・壬生沢・福島  
へのバス、日祭日運休となる。  
村民憲章・村木・村花制定。  
合併30周年。

## 教育・文化

北小改築終了。  
ランチルーム完成。  
南小にナイター照明設置。



北小学校完成(昭和57年)

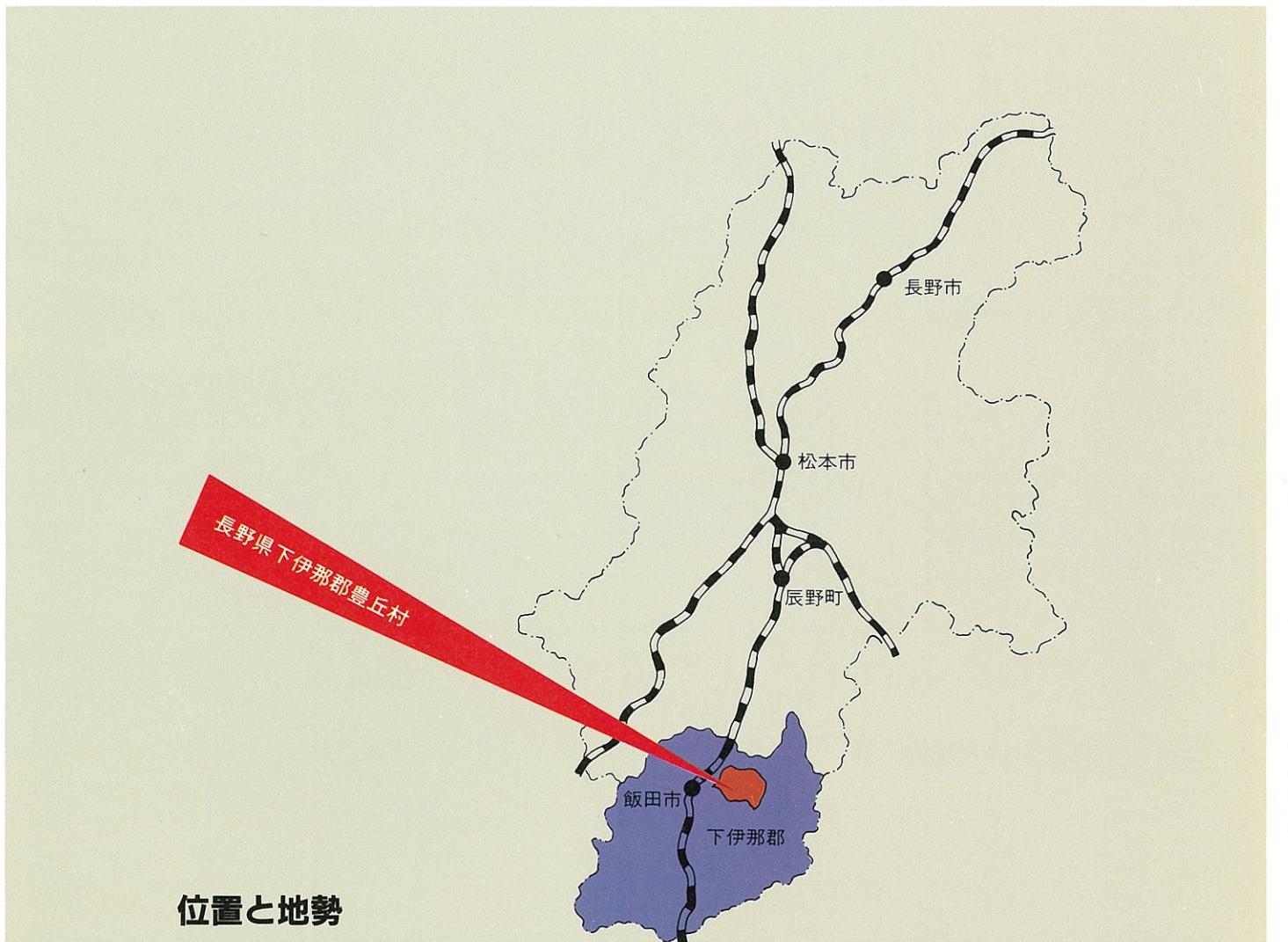
台風10号。

サラ金問題。

## 生活・その他

田村堤防の桜、伐採。  
全戸一斉ゴミゼロ運動。

●歴代村長	●歴代議長
昭和30年4月～42年4月 三石善雄	昭和30年4月～34年4月 福沢 勇
昭和42年4月～58年4月 唐澤卓雄	昭和34年5月～38年4月 武田慶一
昭和58年4月～現在 菅沼一寿	昭和38年5月～39年7月 原 広美
	昭和39年8月～41年11月 西元政治
	昭和41年11月～46年4月 竹村敬寛
	昭和46年5月～53年12月 長谷川正昌
	昭和53年12月～54年4月 森田恒雄
	昭和54年5月～58年4月 壬生清美
	昭和58年5月～現在 東 一郎



## 位置と地勢

豊丘村は下伊那郡の竜東北部に位置し、東は鬼面山および大西山等、伊那山脈を境として大鹿村、上村に続き、南は高闘山を境に喬木村に接しています。また、西は天竜川を隔てて高森町、松川町に相対し、北は間沢川をはさんで松川町生田に接しています。総面積は 76.29 Km<sup>2</sup>で、東西 10.5 Km、南北 7.5 Km の地形は、山林がほぼ75%を占め、集落の形成は天竜川沿岸の下段地帯、河岸段丘を重ねる中段地帯および山麓地帯に大別されます。地質は沖積地帯（下段）、洪積台地（中段）、火山灰土（上段）から成っており、伊那山脈に源を発する壬生沢川、虻川、漆沢川、芦部川、寺沢川、市ノ沢川、間沢川の各川が、いずれも段丘を横断して渓谷をつくり、天竜川に注ぐなど、起伏に富んだ静かな村です。

## 豊丘村村歌

一、山脈たかく  
朝光きざす  
おどる若鮎 天龍に  
映るわが豊丘 心のふるさと  
二、叡知と汗に いのち覚めて  
柿はかがやき 林檎たわわに  
みのり豊けし 明日の道  
拓くわが豊丘 潤いのさと  
三、継ぎ来し代々の 歴史も永く  
たかき文化を よろこび築く  
若きからの たがる村  
進めわが豊丘 永遠のふるさと

作詞者 川中島敏人  
作曲者 市瀬太直  
補作者 池田寿一

## 紹介します。…村花・村木

### 村の花—こぶし

(昭和60年11月9日制定)  
早春の頃、白い香りのある、六弁の花を枝先にかかる。野田平地籍のこぶしの群生は、全国的に珍しく、その姿は壯観である。村指定文化財でもあり、純白の花の群生する美しさは、豊丘村民の和と躍動を象徴している。



### 村の木—赤松

(昭和60年11月9日制定)  
全山赤松におおわれ、村の特産であるマツタケは、この豊かな赤松林から生産される。

四季を通じて緑を失わず、台地に力強く根をおろした姿は、村を象徴する木にふさわしい。





昭和50年11月、合併20周年を記念して制定された村章は、豊丘村の「と」を図案化したもので、左に段丘と山、右に天竜川に沿った平野を表わし、かつ空に向かってあふれる躍動感を表現しています。